

外務省 民間援助連携室
事務官 藤田陽子 殿

平成 22 年度 NGO 職員受け入れ研修プログラム 報告書

1. 当団体の参加につきまして

外務省の ODA 政策や実施について、全体の理解ができる機会と考え、当団体としてはじめて同研修プログラムに参加させて頂きました。普段の N 連申請やアドボカシーの業務では触れる機会のない、官民連携、評価、広報等のテーマにつき、最新動向を伺うことができ、ODA を理解する、大変貴重な機会でした。また、NGO が申請できる資金枠組みについて丁寧に教えていただいたことは、業務に直接的に役立っていくと思われます。研修内容を団体内でよく共有するとともに、来年度以降もほかの職員が受講させて頂ければ幸いに存じます。

2. 所感

佐渡島国際協力局長がおっしゃっていたとおり、日本国憲法の前文に ODA の理念にあたるものが書かれているにもかかわらず、年々厳しくなる ODA の資金源をめぐる危機的な状況をさまざまな方のご説明の行間から強く感じました。今後、私たち NGO 側のアドボカシーにおいても、国際連帯税なども視野にいれた財源論は避けて通れない課題であると再確認を致しました。

一方で、NGO に対する支援制度については、本年度から来年度にかけて N 連の改定など、NGO にとってはさらに有難い状況となっていることがよく理解できました。それだけに、私たち NGO 側の実施能力とアカウンタビリティを強化しなければなりません。

「市民への広報」については、本省でも JICA でもお話がありましたが、これはもちろん、NGO にとっても共通の課題です。私たちの団体も、慈善的アプローチを超えた、人類共通の課題に世界のひとたちとともに取り組んでいこう、というメッセージをどのように打ち出せるのか、そしてそれを以下にファンドレイジングにつなげるのか、模索し続けています。

研修は、ODA を理解する機会であったとともに、内省の機会ともなりました。アドボカシー、開発事業、広報すべての NGO 側の活動において、今までのやり方「business as usual」を克服していかなければならないと改めて思います。

研修に参加させて頂きましたことに改めて御礼申し上げます。今後の活動に生かして参ります。

平成22年度「NGO職員受け入れ研修プログラム」報告書

2011年3月10日

特定非営利活動法人 難民を助ける会

山田かおり

【期間】2011年2月28日（月）—3月2日（水）

- 研修プログラム全体を通じて、外務省がNGOとの連携の推進に強い意志を持ち、積極的に取り組んでいることが感じられた。「連携」というのはこれまでは言葉としてしか感じられていなかったのが正直なところだが、パートナーとしてのNGOの責任の重さが自覚できたことは大きな収穫である。多くの省員の方から日本のNGOが力をつけることの大切さと、そのために資金基盤を盤石にすることの重要性が語られ、それにはまったく同感である。今後はNGOが具体的にどのような力をつけ、どのような存在になっていくべきなのか、それによってどのような連携を目指すのか、具体的に共有できるとより良いのではないかと思った。
- 研修では、民間援助連携室を中心にODA全体を管轄する国際協力局の方々から、ODAに関して全体予算やスキーム、評価、NGOや企業との連携について等、全般を学ばせていただいた。これによってODAのみならず、当会が行っている海外での事業、NGO全体の動向など、これまで個別の動きとして見えていた各事象が、世界的な潮流の中で、また日本の国としての動きの中でどのような意味をもち、意義があるのかということが見えてきた。今回は外務省の考え方、見方を提示していただき、まだまだお話を伺って内容を理解するのが精いっぱいなところがあったが、今後はそれらを改めて幅広い視野から見つめ返し、考えを深めていくとともに、建設的な意見交換や提言ができるよう、努めていきたい。
- 当会では今年度、NGO相談員を受託しており、国際協力全般についてお話する機会も多い。相談員業務を行う上でODAの知識や理解が深まったことは非常に重要であると思う。またNGO補助金やJICAとの開発教育の協働についてなど、国内事業担当としても実践的な内容が含まれており、担当者とも面識をもつことができた。早速今後の企画に生かしていきたい。

以上

「NGO 職員受け入れ研修プログラム」に出席して

国際的に、民間援助団体の国際協力に果たす役割が拡大する中、日本も外交において、政府と NGO が情報共有等を通じて、しっかりとしたパートナーシップの確立が必要な時代になっているという認識の下、政権交代を経た日本の国際協力政策が、特に NGO とのパートナーシップ構築において、どのような方向性にあるのかを確認する絶好の機会となった。

対 NGO については、NGO 連携無償資金協力などの資金供与手段の拡充だけでなく、地方における NGO の相談窓口や組織強化のための施策なども用意されていることに、外務省の日本の NGO に対する姿勢が表れていると思った。日本の NGO による国際協力が日本の国際的プレゼンスにも影響を与える中、NGO 自体の組織や活動の強化が欠かせない課題となっていることが今回の研修を通してよく理解できた。寄付文化がまだまだ根付いているとはいえない日本社会の中、政府・外務省が NGO 重視の姿勢を打ち出し、国際協力局、特に民間援助連携室などの開かれた部署が存在することの意味は大きいと感じた。

ODA の国民に対するアピール、官民連携の強化、国際機関における日本の影響力保持など外務省の努力を知ることを通して、ODA がいかに日本の外交にとって重要な積極的ツールであるか、予算面においても外交戦略上重要な位置づけを占めてしかるべきことがよく理解できた。

今回、実際に外務省職員との対話を持つことのできる研修を通して、NGOの窓口である民間援助連携室が、手続き上必要な時のNGOとのコンタクトにとどまらず、日常の業務中での進捗状況の共有、質問に対する対応などを通して、より実のあるNGOとの関係作りを望んでいると知れたことはとても有益なことだったと思う。今後は、国際NGOとしての組織内での動きだけでなく、日本の国際協力における方向性にもよく注意して、
[REDACTED]の活動のあり方を捉えて行きたい。

NGO職員受け入れ研修プログラム 受講終了報告書

報告者： XXXXXXXXXX

開催場所：外務省

開催日時：2011年2月28日～3月2日

1.プログラム参加前後で変わった点

・行政施策への関心

今回の研修がきっかけとなって、外務省をはじめ、他の行政機関においても、民間に対して非常に多くスキームが用意されているということを知りました。今後も進んで情報を調べ、各種施策を有効的に活用しようと思いました。

・団体活動へのモチベーション

少人数ながら各団体でご活躍されている他の参加者のお話を伺うことができ、自分自身への刺激になりました。これも短期間開催により出席しやすくなった利点だと思います。

2.要望

・広報

セミナーのお知らせを何度か掲載し直してくれるとリマインドがいきわたるのではないかと思います。今回、団体事務局長経由でプログラムの存在を知り、申し込みました。

外務省のHPは普段なかなか見ることがなく、他のNGOネットワークサイトからイベント情報はチェックしているものの、時として日常の業務に忙殺され、イベントの存在を忘れてしまうことがあります。また、他団体の最新情報が掲載されるにつれ、古い情報を見つけづらくなってしまいます。見落としがないよう、各種情報掲示板に更新し直すと注意喚起が促されるかと思います。

・研修の充実化

多くの制約があるかと思いますが、今後さらにセミナーや研修を用意していただきたいと思いました。アンケートにも記載しましたが、テーマや人数、対象となる人間毎に色々な研修があれば、それに合わせて出席したいです。

3.所感

外務省の皆さまが非常に親切で、個性的な方々が多く、外務省員という自分の中での固まったイメージを崩してくれました。民間援助連携室の方々も和気あいあいとしている印

象を受け、こちらも徐々にリラックスして受講することができました。外部の人間にフランクにお話しして下さったことも非常に良い刺激と勉強になりました。

～平成22年度NGO職員受け入れ研修プログラム参加報告書～

(社)大阪南太平洋協会事務局長 濱崎三枝子

アンケートの各研修プログラムに関する所見は提出させていただきましたので、研修を終えての総合的な所感としてご報告させていただきます。

当会は大阪に拠点を置くNGO団体ですので、IT導入前は、我が政府機関が展開していく現地でのODA事業を明確に把握する機会があまりなく、官民連携プレイがより友好的に進展していく現地政府との関係を比べると、我が政府機関の存在は、比較的近くて遠い感じがしていました。

過去2回草の根と無償資金協力事業に携わらせていただきましたが、N連室や大洋州課担当事務官との面談に際しても、数回、数時間程度の質疑応答や報告に留まり、外務省の実態を把握する術を持ちませんでした。

一昨年、効果検証プログラムに地方団体として参加させていただき、他の大手NGO団体がN連室と日常的に情報交換されている姿を拝見させていただき、当会ももっと積極的にアプローチしなければと発奮し、以後できるだけN連室主催プログラムにはHP等を通して密に情報を得るよう努めてまいりました。昨年度から太平洋島嶼国がODA事業の重点課題地域に掲げられていることも前向きな行動に繋がり、遅ればせながらこの度の研修プログラムに参加させていただきました。

他団体職員の方々の意欲的な質疑などに大変刺激されましたが、3日間の充実した研修を終え、なんとなく今まで見えていなかった外務省・NGO連携という突破口を、私自身少し開けさせていただけたように感じています。

プログラム内容は、初日の外務省国際協力局組織説明から始まり、各課担当事務官による事業内容等のブリーフィング、JICA訪問、NGO・外務省連携推進委員会やN連室の案件採択会議オブザーバー体験まで、私達NGO職員が目線で企画していただき、多くを密に学ぶ機会となり、有意義な研修に満足いたしております。また佐渡島局長、山田NGO大使、山口N連室長との会食や、N連室の各担当事務官との懇親会等に参加させていただき、和やかな雰囲気での歓談は、官民と立場は違いますが、国際協力への熱い思いを共有させていただき、更に私共NGOへの温かいエールのお言葉は有り難く聞かせていただきました。誠に心強く、今後の事業展開への活力をいただきました。

他団体の若手職員の方々とも今回一緒させていただき、お互いの活動の情報交換や団体運営改善に向けてのヒント等が得られる機会となり、本年はとりあえず大阪でのNGO団体ネットワーク強化を目指し、他団体と今回の学びを共有させていただければ幸いと存じます。

当会といたしましては、他大手NGO団体を見習い、N連室の担当事務官の方々のご指導を受けながら、明確な申請案作成手腕を早く取得し、無償資金協力事業はじめ、インターンプログラム制度、NGO事業補助金等、この度の研修成果を今後の事業展開に毎年顕わしていけるように、

自助努力により前向きに取り組んでいきたいと思ひます。

今後ともこのような研修を開催いただき、NGO連携に一助していただきますよう、お願い申し上げますと共に、事前準備から最後まで大変お世話になりましたN連室の事務官皆様、特に藤田事務官に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

2011年3月11日

外務省国際協力局民間援助連携室
室長 山口 又宏 様

特定非営利活動法人関西 NGO 協議会
奥谷 充代

平成 22 年度「NGO 職員受け入れ研修プログラム」報告書

以下の通り、研修受講の報告を申し上げます。

今回の研修は、想定していた以上に、実務者にとって即戦力となるプログラムでした。

大局的俯瞰的な観点から、ODA に関する外務省の見解や今後の見通しを、また、ご担当されている業務を具体的にご説明いただき、理解が深まりました。質疑も、真摯にご応答いただき、感謝いたします。

1. 個別ブリーフを充実させる

自団体が抱える課題や、関西の状況をお伝えし、ざっくばらんに意見交換ができて良かったです。“個別（今回は当団体+1 団体の計 2 団体でしたが）”ならではと考えます。もう一回増やして、二回にさせていただけると、異なる職員の方と異なるテーマでディスカッション出来るので、希望します。

2. NGO 理事・事務局長レベル向け受け入れ研修プログラムの実施

対象を絞り、より一層活発な意見交換、人脈の構築を目指したプログラムを検討していただきたいです。

3. 民間援助連携室との人脈構築

室員の方々との人脈を構築できたことが、有益でした。今後、ご相談（ご提案）する場合、変な気遣いなくできるのではと思っています。

4. 民間援助連携室の“見える化”

室員の方々にご自身の担当業務を具体的にご説明いただき、まさに率先して“見える化”に取り組んでいらっしゃるのを目の当たりにすることが出来ました。

「NGO 連携無償資金協力」や「NGO 事業補助金」申請を検討している加盟団体には、本研修の受講を勧めたいと考えています。

遠方からの参加者には、ぜひ今年度と同様、旅費・宿泊費の支給を継続していただきたいです。

以上

平成 23 年 3 月 10 日

平成22年度 NGO職員受け入れ研修プログラム 参加報告書

所属団体: 特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク

氏名: 林知美

■研修を受けて

ODA や外務省についての説明パンフレットは読んでいたが、実際じっくり外務省という組織について知ることはなかったため、直接、担当の方から外務省全体や各課の役割・方針を説明してもらうことで具体的に理解を深める機会となった。

また、佐渡島局長や JICA の高田氏が「なぜ国際協力を行うのか」ということを説明する際に、憲法前文や ODA 大綱が引用されていたことが「日本という国としての国際協力」を意識する上で、印象的だった。愛媛という一地域で行われる NGO 活動の中では、「地域に密着した国際協力」が主眼に置かれ、憲法や ODA 大綱を強く意識しているとは言えない。外務省は何を基本方針として、何に沿って動いているのか、ということの認識を改めることができた。そして、その中での NGO の役割・現状についてそれぞれの方のオープンな意見を聞くことができ、刺激にもなり、今後の地域での活動の方向性や自分のキャリアを考えていく上で大変参考になった。

■プログラムで得た情報等が担当業務に活かせるかどうか

NGO 相談員業務として、よく「国内も大変なのに、なぜ国際協力が必要なのか」や「ODA でどんな事業をしているのか」等についての質問も受けることも多いので、政府の取組みや今回学んだ日本の知見・技術としての母子手帳や交番制度等の好事例を紹介することができる。NGO に対する支援事業も NGO との対話が進むことで、ニーズに応じたスキームになっていることが分かり、ネットワーク NGO として組織力をつけることで、大いに活用できると感じた。N 連の模擬選定会議も今後事業申請をしていく上で、どのようなことに気をつけたらよいかというポイントを教えてもらうことができ、非常に有益であった。

また、外務省のホームページは、情報量が多く、見にくいイメージがあったが、各事業の取組みについて理解した上で、改めて見直してみると、参考になる情報がたくさん掲載されており、今後はもっと活用していきたいと思った。

■所感, 要望

「外務省」という組織を良く知ることで、NGO がどのような連携が出来るのか等について理解を深める良い機会となった。また、四国内のNGOで有給専従職員は数名であり、非常に少ないので、他団体の職員と交流し、意見・情報交換ができたことが刺激にもなった。国際協力活動は、個人レベルや地域レベルで活動をしている人たちはたくさんいるけれど、それをもう少し大きな枠組みで考え、それらの動きが世界・日本の社会システムの中でどういう要素として、位置付けられるのかということを理解して活動していくこと、視野を広く持って地域で活動することの意義を今回の研修で再認識することができた。